

令和6年度 第1回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時：令和6年7月31日(水) 15時～16時30分

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：我孫子市教育委員会教育長 丸 智彦

我孫子市教育委員会教育総務部長 山田 和夫

我孫子市小中一貫教育推進委員11名 内海崎 貴子、山本 幸恵、深山 君江、吉川 直樹、

金児 美佐保、鈴木 沢子、鈴木 伸樹、蒲野 毅、石川 清隆、飯塚 康雄、阿部 政人

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局4名

傍聴人：無し

1 委嘱状

新規委嘱者	第1号委員	白百合女子大学副学長	内海崎 貴子
	第1号委員	我孫子東高等学校教諭	山本 幸恵
	第2号委員	湖北保育園主任	深山 君江
	第3号委員	我孫子中学校 PTA 会長	吉川 直樹
	第3号委員	湖北台東小学校 PTA 会長	金児 美佐保
	第4号委員	白山中学校学校運営協議会委員	田中 玲子
	第4号委員	我孫子第三小学校学校運営協議会委員	鈴木 沢子
	第5号委員	布佐中学校長	鈴木 伸樹
	第5号委員	我孫子第二小学校長	蒲野 毅
	第6号委員	布佐小学校教頭	石川 清隆
	第7号委員	湖北小学校教務主任	飯塚 康雄
	第7号委員	子ども支援課次長兼課長	阿部 政人

2 丸 智彦 教育長 挨拶

先日の湖北小学校の火災では、体育館の3分の1が燃えてしまいました。鎮火するまでに、7時間近くかかりましたが、子ども達と職員の安全を守ることができました。現在は、修復できるのか、建て替えが必要か検討しています。今後は、様々な支障が出てくると思いますが、教育委員会としても支援をしていきます。

我孫子市の小中一貫教育は12年目、全ての学校が小中一貫を開始して6年目を迎えます。マンネリ化を防ぐには、新しいことと改革が必要です。また、我孫子市の特長である「小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的推進」についても「不易と流行」を意識し、バランスを取りながらより良いものにしていきたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。

3 委員長 選出

委員長：内海崎副学長 副委員長：飯塚教諭

4 自己紹介

略

5 議事

(1) 我孫子市小中一貫教育基本方針とその一部改訂について

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

○「我孫子市教育施策目標」の変更について

令和6年度から、我孫子市第3期教育振興基本計画がスタートしました。これを受けて、「我孫子市教育施策目標」を、以前の「子どもの創造性と自主性を育む教育の充実」から「確かな学力と豊かな心、健やかな体を育み、子ども一人ひとりがいきいきと輝く魅力ある学校づくりの推進」へと変更したいと思います。

→委員による承認

(2) 令和6年度の我孫子市小中一貫教育について

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

○我孫子市小中一貫教育の進め方と特色について

我孫子市では、生きる力の育成を目指し、我孫子市小中一貫教育が目指す3つの子ども像を掲げ、中学校校区をひとつのまとまりとして小中一貫教育を進めています。小中学校の施設が離れているため、「環境でつなぐ」「学習でつなぐ」「人でつなぐ」の3つの「つなぐ」を重視しています。市内の全小中学校で実施するAbi☆小中一貫カリキュラムと、中学校区で作成するオリジナルカリキュラムとで取り組みの充実を図ります。また、令和4年度4月よりスタートした、コミュニティ・スクールと一体的に推進することを特色としています。

○令和6年度の我孫子市小中一貫教育の取り組みについて

- ・我孫子市教育委員会が行う支援について
- ・中学校区ごとのランドデザインの承認・評価・改善について
- ・小中一貫教育に関する学校評価の実施について
- ・小中一貫の日の実施について
- ・Abi☆小中一貫カリキュラムの実施について

Abi☆小中一貫カリキュラムの取り組みの様子は、小中一貫だより「繋～TSUNAGU～」にも掲載しています。2学期以降の授業については、委員の皆様にも参観していただきたいと思いますので、後日アナウンスさせていただきます。

【質疑応答】

- ・小中一貫の日の実施は、一日のみの実施ですか。(委員)

➡どの中学校区も、午前中は小学校で通常通りに授業を行っています。給食を食べ、午後から中学校にいきます。

中学校では、中学校の先生と授業したり、部活動見学などをしたりしています。(事務局)

- ・中学校区によっては、児童が小中一貫の日の目的をよく分からないまま小中一貫の日を行っているという状況があるようです。目的を分かりやすく示したり、中学校の先生に小学校に来てもらったりするなど、交流の回数を増やし、中学校入学までのハードルを下げる必要があるのではないですか。(委員)

➡特に、人数の多い中学校では、半日1回だけで中学校への理解を深めるには難しさがあるかもしれません。

今後、児童にとって意味のある「小中一貫の日」になるよう改善をしていきたいと思います。(教育長)

- ・交流の回数や内容について、児童や小学校側の保護者のニーズを中学校側へ伝えていくことが必要だと思います。実施するだけでなく、実施後の検証やフィードバックの方法も改善していく必要がありますね。(委

員)

- ➡コロナ以前は、中学校区で話し合い共通理解を深めていました。コロナ禍で変わってしまったこともあるので、必要な部分についてはコロナ前に戻していきたいと思います。(事務局)
- ・小中一貫の日の前に小学校同士の交流をする場があるとよいと思います。突然、小中一貫の日に違う学校の人もいるなかで中学校の授業を受けるのは、緊張度が高くなると感じます。(委員)
- ➡小中一貫教育は、「小小連携」が肝になると考えています。学校同士の距離などの問題もありますが、オンラインなども活用しながら、小学校同士の連携をもっと大切にしていきたいと思います。(事務局)

(3) 我孫子市小中一貫教育に係る評価について

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

○Abi☆小中一貫カリキュラムの検証授業の実施について

- ・検証授業実施のねらい
- ・検証内容
- ・検証方法
- ・令和5年度の成果と課題
- ・令和6年度の取り組みについて

○小中一貫教育に関する令和5年度の学校評価について

- ・評価のねらいと方法
- ・令和5年度市内学校評価集計結果について

(4) 小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的推進について

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

○小中一貫教育における学区・家庭・地域との連携、協議の意義

- ・体験活動の充実について
- ・子どもや地域を取り巻く課題への対応について

○コミュニティ・スクールとの一体的推進

- ・学校運営協議会をととした小中一貫教育の充実について
- ・令和4年度からのコミュニティ・スクールの様子について
- ・地域学校協働活動の充実について
- ・学校と地域の組織的な連携、協働に向けて
- ・東京理科大学との連携について

(5) 特色あるカリキュラム作りについて

【事務局より説明】

(資料に基づき以下について説明)

○特色あるオリジナルカリキュラムの作成について

- ・作成の方法
- ・手だてと効果

・これまでの経過と各中学校区の現状

【質疑応答】

・中学校区でのランドデザインは共有できているが、カリキュラムはできていない。そこで、中学校区が同じであるという特色を生かし、地域の教育力を活用した中学校区のカリキュラム作りに取り組んでいくということでしたが、保護者の評価に学校間で 42.5%の差があるというのは統計的に非常に大きな差です。なぜ、このような差が生まれたのか、教育委員会ではどのように考えていますか。(委員長)

➡中学校は、どこも平均的に高い結果となっています。これは、小中一貫の日に中学校に小学生が来るので理解しやすいのだと思います。この様子が、小学校低学年の保護者からは見えにくいという背景があると思います。また、保護者の結果は低くても教職員の結果は高いという結果からは、保護者への周知の方法に課題があるのではないかと考えています。(事務局)

・低・中学年という話がありましたが、関心のある・なしは、保護者間に差異があるということでしょうか。1年生のときから中学校に関心のある地域がある一方、目の前のことにのみ関心を持つ地域があるということであれば、情報発信の方法は保護者の傾向によっても変わってくると思います。より細かい分析を行い、なぜ、このような差異が生まれたのかについても分析をしていくとよいと思います。(委員長)

・45%しか評価を得られなかったという結果が気になります。低学年の保護者は小中一貫教育がどのようなものか本当に分かりません。どのような取り組みなのか、取り組みの意義も含めて発信していく必要があると思います。保護者の教育への関心が低いのか、情報発信の差によって差異が生まれているのかによって手立ちは変わってくると思いますが、保護者と学校の距離を近づけていく必要はあると思います。(委員)

➡中学校区の自慢や特色をもっと打ち出していくなかで、「こういう子どもを育てたい、そのためにこういうことをしているんだ。」というメッセージをもっと伝えていく必要があると思いました。(事務局)

・認知度を上げていくためには、保護者への全体説明の場も必要だと感じました。(委員)

・ランドデザインについて、学校側も説明をしてくれますが、内容が難しく、また年 1 回の説明では理解しきれません。学校のホームページにも掲載されていますが、何人の人が見ているのでしょうか。小中一貫教育というと、「小中一貫の日」だけで行っているという認識の人もいると思います。このアンケート結果の数字をそのまま信用することはできないと思います。市のホームページに掲載されている「繋～TSUNAGU～」や「スクラム」も文字数が多いと思います。保護者が地域の人になっていくので、まずは、保護者への働きかけをもっと工夫する必要があると思います。(委員)

・実際、どのくらいの人が学校のホームページを見ているのでしょうか。(事務局)

・自分から見ると人は固定化していると思います。PTA として様々な工夫をしていますが、ホームページの使い方や情報の発信の方法には工夫が必要だと思います。保護者が発信したいことを学校に依頼するとタイムラグもできてしまいます。(委員)

・現在、学校で取り入れている「スクリレ」はカラーで見やすいと思います。スクリレでの発信を活用することで、学校間の底上げにもつながるのではないかと思います。(委員)

・中学校区でのカリキュラム作りについて、学校運営協議会での委員による熟議は、年度末でなく年度の途中でもできるのでしょうか。(委員)

➡年度当初に学校側から学校運営協議会委員にランドデザインについても伝えていきますので、いつでも熟議に関わってもらうことができます。(事務局)

・どのくらいの期間で、中学校区オリジナルカリキュラムの完成を目指していくのですか。(委員長)

➡3年間くらいでの完成を目指しています。(事務局)

・委員の皆さんには、現在進行形でオリジナルカリキュラム作りが行われているということで、様子を見ていて

ほしいと思います。(委員長)

6 その他・連絡

【事務局より】

○小中一貫教育に関する参観・評価について

- ・実際に小中一貫教育に関する実践を見ていただき、第2回の会議では今年度の我孫子市の小中一貫教育について評価をお願いします。
- ・2学期以降、授業参観日をいくつか設定し、後日御案内しますので、参観をお願いします。そのほか、日々の教育活動の中で、我孫子市小中一貫教育について見つめていただき、あわせて評価をお願いします。

○第2回我孫子市小中一貫教育推進委員会について

- ・第2回は令和7年2月12日(水)、15時から会場はアビスタで行います。